

【幕別】浦幌町のNPO法人「食の絆を育む会」（近江正隆理事長）を中心に行う管内の高校生農村ホームステイの受け入れ者数が、延べ2万人を超えた。29日は十勝幕別温泉グランヴィリオホテルで、受け入れを担う農家や漁師、林業家が交流する「笑顔の大収穫祭」を開き、9年の歩みを振り返った。

同法人は管内約400戸の農林漁業者の協力で2010年から高校生の1泊2日のホームステイを手がける。今年の受け入れを終え、9年間の延べ人数が2万349人に達した。卒業後に帯広畜産大に進学したり、管内に就職したりする生徒もいる。

この日は2部構成で、第一部の「簡単手作り雑貨&クッキング交流会」は16人が参加。本別町の和牛繁殖農家小笠原愛さん（42）の指導でクリスマス飾り作りに挑戦した。紙コップに綿や赤唐辛子、松ぼっくりなどを飾って20分ほどで小さな飾りを完成させた。

高校生ホームステイ2万人突破

受け入れ側招き交流会 浦幌のNPO



サンタの仮装をした小笠原愛さん（左から2人目）の指導でクリスマス飾り作りに挑戦する参加者たち

第2部の「大収穫祭」は43人が参加。自己紹介やビンゴ大会などで交流し、映像などでこれまでの歩みを振り返った。近江理事長は「多くの受け入れ家庭が参加。自己紹介やビンゴ大会などで交流し、映像などでこれまでの歩みを振り返った。近江理事長は「多くの受け入れ家庭はもちろん、役場や農協の職員も力を合わせてこの活動を続けていきたい」と話していた。

（米林千晴）